参考資料５

令和５年度第１回ウェルビーイング戦略プロジェクトチーム議事要旨

日時：令和５年５月 29 日（月）15:00～17:00
場所：富山県庁５階共創スペースコクリ（一部オンライン）

議事⑴ 令和５年度ウェルビーイング戦略ＰＴの進め方について（資料１）

（事務局説明）

・ウェルビーイング戦略ＰＴは、先例のない新たな課題への対応を検討することとなるため、本年度も引き続き県当局とＰＴが一体となって各種取組みに関する議論・検証を行う。

・ＰＴでは重点的課題を２～３テーマに絞り込み、県当局において検討した施策につきＰＴで意見をいただくという流れで進める。２月中旬頃に令和６年度の具体的な予算案をアクションプランと合わせて公表予定。なお、ＰＴは原則公開で実施するものとする。

議事⑵ 令和５年度アクションプランについて（資料２）

（事務局説明）

・令和４年度の取組状況（ウェルビーイング指標の策定・公表や特設ウェブサイトの開設等）、企業成長×女性活躍プロジェクト事業、とやま子育てイメージアップ事業等について報告

・令和５年度のアクションプランに掲げる主な事業の概要説明（ウェルビーイング指標の活用試行事業、県民ウェルビーイング政策構築事業、「就職期の女性に選ばれる富山県」キックオフ会議など）

・最近の動きとして、Ｇ７教育大臣会合「富山・金沢宣言」等について報告

（委員の主な意見等）

東出委員

・富山経済同友会地域創生委員会ウェルビーイング小委員会の取組み等のご紹介

・企業に人を呼び込み、従業員が離職しないため、企業がウェルビーイングな経営をするということが企業経営の根幹をなすようになってきている。

・県の戦略と歩調を合わせながら、官と民で連携して行動し、実際の変化を促すところまでもっていきたい。指標をもっと PR・活用すべき。次の段階として実際の行動を伴う活動が望まれる。

中村座長

・就職のタイミングで若い女性が県外流出するのは富山の企業体質が古いからとの意見もある。企業経営者自身が変わるのが一番近道だと昨年議論したが、一歩踏み出していただけたと認識。

・指標を社内で周知・活用してもらうとか、指標を示しているモデル企業をアピールするとか、SDGs 宣言のような拡がりに期待

土肥委員

・若年層のウェルビーイング調査で「自然が豊か」との回答が多数。これは親など自分の周りの大人の影響が大きい。同じように、子どもの頃から富山ではこんなに若い人が挑戦しているとか、県外でもこんなに活躍しているということを子供たちに伝えられる環境が大事。また、そういう人達をもっと評価し、応援していくことをどんどんやっていければよい。

佐藤委員

・ウェルビーイングが高まるためにいろいろな取組みをしていること、いろいろな活動をされている方がおられることを、学校単位で学ぶ機会があればよい。

・また、地域の方、いろいろな年代の方と話をするが、県の政策があまり届いていない。LINE などでウェルビーイングの告知をすることなど必要ではないか。

石川委員

・他の県と比べて富山県のウェルビーイングの取組みは進み過ぎている。これだけ全体感をもって、かつ包括的で、総花的にならず、ちゃんと戦略的に焦点を絞ってやっている、ウェルビーイングという政策をしっかりと組織体を持ちながら、戦略的・政策的に進めているというのは全国的にも世界的にも事例がないと思う。

・ウェルビーイングの横串を刺して県政を進めていくとき、県職員のウェルビーイングに対する認識・理解というのが何よりも重要。職域のウェルビーイングを進めている福岡市では職員のウェルビーイング度を測定して、データが悪かったけど公開した。そのように県職員が横連携してやっていく意識づけをするための工夫が少し足りない気がする。

・香川の百十四銀行ではウェルビーイング応援私募債という仕組みを作ったが、経営者を動かしていくときに、やはり地銀との協力は不可欠。

中村座長

・富山では総合的にウェルビーイングの取組みが進みかけている中で、銀行も力を貸していただけるとすごく良い。銀行自体のウェルビーイング経営にもなる。

松原委員

・若者世代のウェルビーイングに関する調査結果において、仕事や学び、地域活動、趣味など、現在自分が行っていることにやりがいを感じているかとの問いにおいて、県内在住者が低い数字となっているところが気になる。世界的なトレンドとして、仕事だけでなくソーシャルな活動だったり、自分の余暇時間の充実だったり、ライフ・ワーク・ミックスといったところに幸せを感じる人が多いし、そのようなところが伸びる地域になっている傾向がある。

中村座長

・せっかく指標を作ったがあまり外に出てこない。指標がどんどん出回るように県庁が率先して職員の方の指標を外向けに出していくのもよいのではないか。

事務局

・ウェルビーイングの特設サイトでは、団体等の括りで花を表示できるように改修を進めている。県の人事当局ではエンゲージメント調査を検討していると聞いており、人事当局とも話をしてみたい。企業については、出すか出さないかは確認が必要。

議事⑶ 令和６年度に向けた重点的課題の抽出について（資料３）

（事務局説明）

・令和６年度は、検討課題を２～３に絞り重点的に取り組んでいく旨、その際、ウェルビーイング政策構築事業（指標データ分析を踏まえ、部局横断的なテーマを２～３選定して政策立案に繋げるもの）とのリンクなどにも考慮する旨を説明

・政策構築事業のテーマ例として、「若者×つながり（地域・富山県）実感」等全５テーマを説明

・島田委員（当日欠席）からの意見を紹介（年代別に見て５つそれぞれをテーマにするのではなく、「働き方とキャリア形成」の観点から、５テーマのポイントがカバーされるものとしてはどうか。富山県における働き方をウェルビーイングの観点から見直し、全ての世代のキャリア形成とライフスタイルが融合し、ウェルビーイングな人生を送るなら富山県、と言い切れるまでアクションしてはどうか）

（委員の主な意見）

土肥委員

・「40 代」×「自分時間」とあったが、40 代でもいろいろある。キーワードとして「子育て世代」のことを言っているんだと分かる表現を組み込めればよい。

・正規雇用者だけでなく、パートも、フリーランスも、起業している人もいるし、どこまでテーマを絞り込んで決めていくのがよいか悩む。女性という切り口もいるような気がする。

中村座長

・全委員が悩むと思うが、全部やるというのは現実的に不可能なので、ある程度テーマを絞って、今年はこれをメインでやろうと割り切ることも必要。

・「正規雇用者」という言い方をウェルビーイングの中であまりしない方がいいような気がする。

東出委員

・「正規雇用者」という括りは違和感がある。

・「つながり」がウェルビーイングには重要。スポーツと文化を合わせて、いろいろな世代の人が関わりを持っていくようなことを施策としてできればよい。（例えば、老人ホームなどでのカターレ富山の応援など）

・あとはやはりウェルビーイング経営。どうすれば働きやすくなるか、どうすれば働きがいを持てるかを経営者自らが勉強しながら実際に社内の施策として導入していくような、行動に移すまでのサポートがあればよい。

中村座長

・若い人は 10 年前と全然価値観が変わっていて、自分がしっかり働き、育児は旦那に任せるという考えの女性も増えてきている。ウェルビーイング経営に向けて、今の採用状況がどうなっているかなどの話も興味を持ってもらえるのではないか。

松原委員

・俯瞰してみると、今回挙がっているテーマ候補は、全部一番低い点に留意してテーマを選出しているが、逆に一番いい数字をみて、良いところを更に伸ばして、富山がいい地域だってみんなが思うようにするという方法もあると思う。その方が面白いし、やっている人も楽しいのではないか。

・また、数字だけでは見えない部分がある。定量だけではなく、定性のユーザーインタビューみたいな一人一人の声を聞く機会を設けてはどうか。

・呼び名、呼称はチームの思想が現れる。「正規雇用者」の表現について意見があったが、その呼称をどうするのかというのはとても大事な視点だと感じた。

中村座長

・ウェルビーイングを実現している人たちにスポットを当ててさらにその方とのウェルビーイングを伸ばすというのも、すごく面白いアイデアだと思った。

佐藤委員

・若者のつながり、60 代のつながり、どれも大事だと思うが、ここにいるメンバーだけで話し合うのではなく、当事者の人に議論に入ってもらうことで県の政策が自分事になっていくのではないか。

・40 代に関しては、子どもを預けて他者に見てもらってもいいんだよという雰囲気づくりが大事だし、生きがい・希望のところは、仕事以外のことに取り組む時間を推奨するようなことが必要だと感じた。

石川委員

・Ｇ７教育大臣会合のレガシーとして、重点的に子ども・若者のウェルビーイングに取り組むことが大事。10 代女子のウェルビーイングは世界的に良くないとの背景があり、Ｇ７の宣言の中でも、特に女子のウェルビーイングが重点対象であると明記された。

中村座長

・女子の流出を防ぎたいとの思いがあるなら、それを防ぐには 18 歳で教えても遅い。中学生とか小学生ぐらいから、富山県ってすごいウェルビーイングを頑張っているとか、男女差別がないとか、そういうのを教えてあげないと手遅れになるのではないか。

佐藤委員

・絵本制作というのがあったが、幼稚園とか小学校低学年までという印象がある。もう少し上の年齢を対象にできればよい。

土肥委員

・子育て世代、特に母親の自己肯定感の低さというものが結構問題視されている。10 代の子供たちに影響を与えるのは学校ももちろんだが、やはり親の存在が大きい。子どものウェルビーイングを上げるには、親もセットなのではないかと感じる。

佐藤委員

・調査結果として富山県はどこの数字が高かったのかということをもっと公表していただけたらうれしい。こういうポテンシャルもある県なのだということを認識するだけでも、一つのウェルビーイングではないか。

中村座長

・是非富山で楽しそうにしている人、こんな人たちがいますよというのを外向けに出していって、みんなこんな感じでやりましょうってなればいい。

・アドバンテージのところ、こんないい意見があるとか、こういうところは富山県の人はすごい満足してますよとか、共有いただけばよい。

東出委員

・富山型デイサービスの発想は素晴らしい。小学校が終わってから行く学童とか、そこでおじいちゃんたちと畑で収穫をするとか、ご飯も子ども食堂のように誰かが作ってくれるとか、富山型デイをもっと大きな枠で、ゼネラル版みたいな、そこいる全員を巻き込みながらやっていくようなことができたらいい。

中村座長

・60 代以上の一人暮らしで仕事を辞めた人が、近所の子供の面倒をみるとかはあり得る話。

・食べ物が美味しいのが富山の武器。日本一美味しい子ども食堂が富山県にあるというのもあり。

石川委員

・県職員だけではなく市町村の職員にもいかにウェルビーイングを理解・共感してもらうかが重要。

・小中学生の女の子の間で流行っているウェルビーイングになるための本が参考になる。
・子どもと関わる機会の多い大人のウェルビーイング、例えば、親、先生、放課後に子どもと接する大人達、学童であるとか部活であるとかというように整理して、その方々のウェルビーイングを上げていく整理の中で子どものウェルビーイングに取り組むのもいいかもしれない。

松原委員

・子どもの本を作るのなら、大人の先入観とか既成概念で決めないようにすることがすごく大事。海外で生活していて分かったのは、子どもは子どもらしくあるのが一番幸せなんだということ。子どものウェルビーイングって本当に何なのかというところから是非問い直して本とかにしてもらいたい。

佐藤委員

・40 代の「自分時間」に特化しているが、子どもと一緒にしか体験できないことを体験できているのは貴重な時間。それがすごいウェルビーイングにつながっていると感じている。自分時間も必要だが、子どもといる時間は幸せなんだと認識できればよい

中村座長

・子育てって大変だけど、子どもと一緒に２回目の人生を楽しめる感じがする。子ども繋がりで、もう一回ゼロからスタートするという良い経験をしているということを言ってあげるといい。

土肥委員

・富山は全国に誇れるぐらい安全・安心な街だと思うが、夏の暑さや雪、豪雨などそうでもない面もある。子どもたちのためにも富山の天候の特性に対応できる安全・安心な街づくり、遊びの環境づくりを伸ばしていけたらいい。

東出委員

・スクールバスとか 60 歳以上の方に活躍してもらうとか、それぞれの人が何か自分でできる大きな仕組みづくりがやはり必要ではないか。

佐藤委員

・高校で探求学習が始まっている。若者のつながりの観点で何か教育と絡めることはできないか。

事務局

・例えば、若者と地域のつながりというものをテーマとして、地域プレーヤーと一緒につながってやるのは親和性が高いかもしれない。

中村座長

・こどもと親、企業で働く人と経営者などは表裏一体。セットでテーマ化をしていく必要があるのではないか。
・ネガディブな部分のサポートではなく、ポジティブなところをさらに拡大することも是非テーマに挙げて、ウェルビーイングってすごく楽しいものなんだと思ってもらうこと、富山って楽しそうということが最終的に発信できることが、一番ウェルビーイング事業の成功につながるのではないか。

事務局

・ご意見を踏まえ、ＰＴとして６月に予定している成長戦略会議に報告する重点的な検討課題の案を事務局でまとめ今後相談させていただきたい。

以上